

ひとみ

発行
相生市教育委員会
(人権教育推進室)
電話 23-7145
令和6年8月号
(第62号)

8月は「人権文化をすすめる県民運動」 推進強調月間です

日々の生活の中で
お互いの「じんけん」を尊重することを
自然に感じたり、考えたり、行動することが
定着した生活の有り様そのもの
それが「人権文化」です
身長も体重も顔かたちもみんな違うけれど
ただ一つ「幸せに生きたい」という
願いはみんな同じです
そんな違いを認めあい
同じ命をいたわりあうことが
息をするように自然なことになる社会へ
ことさらに「じんけん」を特別なものとして
考えるのではなく
いつもかかわりあって
あたりまえのことだと思えるように
ごく普通にそんな意識をもって
くらせる社会づくりが
「人権文化をすすめる」ということなのです



じんけんというあたりまえのこと

●いのち輝かせて●

いのち かけがえのない命
つながっている命
支え合っている命

命を輝かせて生きるために、自分はいったい何を大切にし、どんな生き方をすればよいのでしょうか？

「自分を受け入れる」

自分と他の人を比べて「優れている」「劣っている」という見方をしてしまうことが私たちにはあります。それがもとになって「優越感」や「ねたみ心」がめばえ、「見下した態度」や「嫌がらせ」になってあらわれることがあります。

他の人と比べるのではなく、かけがえのない自分の命を見つめ、「ありのままの自分を受け入れる」ことが大切ではないでしょうか。

●ひとを大切にしてい●

ひと 自分が大切
あなたも大切
みんな大切

「自分も人も大切にする」欲ばりな生き方、考えてみませんか？

「長所」は「短所」

短所と長所は裏表の関係にあります。短所ではなく「長所を見ようとする」ことで、自分を好きになれます。そうすると、相手の長所も見えてきて、人を大切にできるのではないのでしょうか。

「短所」を「長所」に言い換えるとどうなるでしょう

おせっかい	→	めんどろ見がよい
一人で抱え込んでしまう	→	責任感が強い
おおざっぱ	→	おおらか
くどい	→	ていねい

●ただしく知って●

ただしく 誤った理解は、偏見や間違ったイメージをつくり、判断を狂わせませす。「問題を解決するには、その問題を正しく知る」ことが大切ではないでしょうか。

「大切なこと」

生活や仕事に不満をもったり、人間関係がぎくしゃくしたときに、原因が自分にあるのに相手を攻撃したり、他の人のせいにしてしまったことはありませんか。

差別的な発言、いじめ、虐待などの問題は、このような「心のゆがみ」がきっかけとなることが往々にしてあります。「つねに自分を振り返る」「前向きに生きる」ことが人として大切なのではないのでしょうか。

●ちがいを認めあいかわりあって●

かわり 「生き立ち」「考え方」「文化」など、自分とは違う人とのかわりが多ければ多いほど、生き方の幅が広がり、人に優しくなれるのではないのでしょうか。

「あいさつ」と「笑顔」

「あいさつ」と「笑顔」は人の心をなごませませす。それは、人種、年齢などにかかわらず、心の扉を開くカギの役割を果たませす。

「相手を思いやる気持ち」があれば、何かできることが見つかるのではないのでしょうか。

●人権文化の息づくまち●

幸せを感じることは 「うれしい」「たのしい」「おはようございませす」

「感謝ませす」「ありがとうございませす」

「ごめんなさい」…

一日を振り返り、「幸せを感じることは」を何回ぐらい思ったり使ったりしたでせう。

(兵庫県・(財)兵庫県人権啓発協会)「人権文化をすすめるために」より

「人権文化の息づくまち」は、家庭、学校、職場、地域において、このようなことばに満ちあふれた「まち」ではないのでしょうか。

令和6年 相生市内在学の生徒による福祉教育作文の紹介

中学校の部 優秀賞

『補助犬の理解を広めよう』 双葉中学校 3年 宮内 友彩

みなさんは補助犬をみたことがありますか。補助犬は「身体障害者補助犬」という正式名称で、目や耳や手足が不自由な人の自立や社会参加を助けるための犬のことです。そして補助犬には三つの種類があります。視覚に障害のある人の歩行を助ける「盲導犬」、聴覚に障害のある人に必要な音を知らせる「聴導犬」、手足などに障害がある人の日常生活を助ける「介助犬」です。

私が補助犬に興味をもったきっかけは、インターネットで補助犬ユーザーのある話を目にしたことです。

それは、「飲食店で入店を断られた補助犬ユーザーが、小学生の説明により入店を受け入れられ、その後、他のお客さんから補助犬の素晴らしさを褒められた。」という話です。

私はこの話を知って二つのことを思いました。

一つ目は、まだ補助犬について深く理解している人が多くないんだなということです。補助犬ユーザーの入店を拒否した店側も補助犬を店内に入れることが、他のお客さんにとって衛生面や心理面で影響を与える可能性があると考え、悩んだ結果、入店を断ったのだらうと思いました。しかし、小学生の説明を聞いて、補助犬について理解し、快く受け入れられた店側は素敵だなと思いました。

二つ目は、店員が心配しなくてもいいくらい他のお客さんが補助犬に対してとてもポジティブな考え方をしていたことです。このように補助犬がいろいろな店や施設で正しく理解されるようになればいいのになと思います。

しかし、犬アレルギーの人や、犬に対して恐怖心を抱いている人はどうでしょうか。自分と犬が同じ空間にいることが不可能な人もいます。この人たちは決して悪くありません。

では、補助犬ユーザーとこれらの人がお互い我慢せずに店を利用できるようにするにはどうしたらよいのでしょうか。私は補助犬ユーザーが使う別のエリアを作ったらいいと思います。店の大きさによって可能な店とそうでない店があると思いますが、補助犬ユーザーもそれ以外の人もゆったり安心して過ごせる店が少しでも増えたらいいなと思います。

「飲食店に犬がいるのは不衛生なのではないか」「吠えたりしてうるさくなるのではないか」という否定的な意見もあると思います。しかし補助犬について調べてみると、「案外マイナスなことはないんだな」と意見がかわるかもしれません。また補助犬は、「身体障害者補助犬法」という法律に基づいて訓練し、認定されているので、どんな訓練をしているのかを知ることによって、理解も深まると思います。

補助犬ユーザーもそれ以外の人も補助犬も暮らしやすい社会にしていきたいと思います。



正しいことを知る、そして、正しいことを伝えることが人権文化の息づくまちづくりの第一歩ということを教えてもらった作品です。

大人の人権教室



令和5年に兵庫県では県民の人権に関する意識調査が行われました。
令和6年3月にその結果がまとめられています。

人権に関する県民意識調査より(令和6年3月)

- 関心のある人権問題は、「インターネットによる人権侵害の問題」が最も高く、次いで、「障害のある人に関する問題」、「女性に関する問題」、「子どもに関する問題」などの順となっている。

インターネットによる人権侵害の問題	51.1%
障害のある人に関する問題	42.8%
女性に関する問題	40.6%
子どもに関する問題	40.0%
風評被害に基づく偏見や差別など、災害に伴う人権侵害の問題	30.2%

関心のある人権問題上位3つについて考えてみましょう

● インターネットによる人権侵害をなくそう

インターネット上で、他人を誹謗中傷したり、個人の名誉やプライバシーを侵害したり、あるいは偏見や差別を助長したりするような情報を発信するといった悪質な事案が急増しています。このような情報の発信は、同様の書き込みを次々と誘発し、取り返しのつかない重大な人権侵害にもつながるもので、決してあってはなりません。

個人の名誉やプライバシー、インターネットを利用する際のルールやマナーに関する正しい知識と理解を深めていくことが必要です。

● 障害を理由とする偏見や差別をなくそう

障害のある人が地域社会の中で暮らしていくうえで、階段等の「物理的な障壁」、資格制限等の「制度的な障壁」、差別や偏見等の「心理的な障壁」、点字図書不足等の「文化・情報面の障壁」等があります。スポーツや音楽、文化活動等のあらゆる機会を通じて障害や障害のある人に対する正しい理解と認識を深めていきたいです。

● 女性の人権を守ろう

人々の意識や社会の習慣のなかには、今なお「男は仕事、女は家庭」といった男女固定的な役割分担が残っており、また政策・方針決定の女性の参画の遅れもみられます。このため男女が対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画し得る「男女共同参画社会」の実現をめざしていきたいです。



まちの人権トピックス

4月20日

市民人権学習（双葉小学校PTA）

双葉小学校では、NPO法人奈良地域の学び推進機構理事の石川千明さんを講師として人権講演会を開催しました。講演の内容は、「スマホ時代の子どもたちに大人ができること」です。

講演会では、「親子のかかわり」を中心にお話をされました。実際にあったネットトラブルについて、詳しく説明していただきました。

ネットトラブルの解決策として、以下のことが大切だと言われています。

- ① 親子で具体的なルールについて話し合うこと
- ② 大人が子どものネット社会について知ろうとする姿勢をもつこと
- ③ 子どもの「困った」に気がついてあげられる関係であること

出席された保護者や地域の方は熱心に耳を傾けておられました。



5月30日

「人権の花」運動

矢野川幼稚園、若狭野小学校と矢野小学校に人権の花の苗が贈呈されました。

みんなで花を育てることをとおして、協力、感謝することの大切さを学び、生命の尊さを実感することが願われています。

贈呈式には、矢野川幼稚園の園児と若狭野小学校・矢野小学校の6年生が参加しました。

西播磨人権啓発活動地域ネットワーク協議会が主催して行われ、贈呈式の中で、「花たちはお世話しないと枯れてしまいます。やさしくお世話をしてあげてください。みなさんのやさしさが伝わると、とてもきれいな花が咲きます。花をやさしくお世話するのと同じように、まわりに困っている人がいたら、やさしい気持ちをわけてあげてください。」というお話を子どもたちは、うなずきながら真剣に聞いていました。

子どもたちの心のようにきれいな花が、きっと咲くことでしょう。



花の苗植えの様子

（若狭野小学校）



（矢野小学校）



（矢野川幼稚園）



「市民人権学習支援事業」実施中

1 目的

- (1)相生市を「人権尊重の文化に満ちたまち」にするため、市民の人権についての学びの活動を支援する。
- (2)人権学習を生涯学習の一つとして位置づけ、より多くの市民に対して学ぶ機会を提供する。

2 支援対象

相生市に在住・在勤する原則 10名以上のグループによる学習に対して運営費、講師謝金等を補助

3 支援対象とする事業内容

- 人権（女性・子ども・高齢者・障がいのある人・同和問題・外国人・性の多様性等）をテーマとした以下の学習活動
- 講演・講話
 - 車座勉強会
 - 人権啓発用 DVD を活用した学習 等
- 詳細は人権教育推進室（電話 23-7145）までお問い合わせください

作品募集中

「令和6年度HYOGOヒューマンライツ作品コンテスト」

募集部門／応募資格

- 文芸部門 兵庫県内に在住、在勤、在学の方
動画部門 兵庫県内に在住、在学している学生
（高・大・専門学生等）
イラスト部門 兵庫県内に在住、在学している学生
（高・大・専門学生等）

応募作品／インターネット上を含む未発表・未投稿の自作作品に限ります。

応募方法／郵送または持ち込み

- 文芸部門×切り 9月6日（金）【必着】
動画・イラスト部門×切り 9月27日（金）【必着】

※作品は、審査委員会で審査・選考されます。

詳細については兵庫県人権啓発協会HPをご覧ください。電話でお尋ねください。

〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15

県立のじぎく会館内（公財）兵庫県人権啓発協会

「HYOGOヒューマンライツ作品コンテスト」〇〇部門係

☎078-242-5355



人権文化の進展と～人権課題の解決について考えてみよう

- 人の優しさや思いやり、支え合うことのすばらしさが表現されているもの
- 一人ひとりを大切に、心豊かな社会づくりをめざす姿勢が表現されているもの
- 生命や人権の尊さ、大切さが表現されているもの
- 人権課題の解決に向けて、明るい展望をもって表現されているもの

「人権文化を推進する」絵本の紹介



「タンタンタンゴはパパふたり」(ポット出版)

ジャスティン・リチャードソン&ピーター・パーネル/文
ヘンリーコール/絵 尾辻かな子、前田和男/訳

動物園にはいろんな家族がいます。でもペンギンのタンゴの家族はちょっとちがっていました。

ロイとシロのパパふたりとタンゴ、それがタンゴの家族なのですー。

ニューヨークにあるセントラルパーク動物園で、実際にあった話を絵本にした邦訳版です。

なかなかかえらない石のたまごを暖め続ける切なさ、待ちに待った赤ちゃんペンギンが生まれる瞬間、読み終わった後、ほんのりあたたかい気持ちになれる絵本です。

「色とりどりのぼくのつめ」(光村教育図書)

アリシア・アコスタ/文 ルイス・アマヴィスカ/文
ガスティ/絵 石井睦美/訳

ベンはマニキュアに夢中。色とりどりのごきげんな爪を見るとワクワクするから。ところが、つめを真っ赤に塗って学校に行ったある日、男の子たちがベンをからかった。「やーい、女の子！」性別にとらわれずに自分らしさを表現するベンは、とても生き生きしています。この絵本をとおして、ジェンダーや多様性についてさまざまな対話が生まれることを期待しています。



「レッド あかくてあおいクレヨンのおはなし」(子どもの未来社)

マイケル・ホール/著 上田勢子/訳

「赤い」クレヨンの「レッド」が主人公のお話です。レッドは赤く塗ることが苦手。周りの人はレッドのために一生懸命応援するのですが、やっぱりレッドはうまく赤を塗れません。そんなある日、レッドは新しいお友達のパープル君に出会い海を描いてと頼まれます。そして、レッドは自分の本当の色に気がついていきます。だれもが自分の本当の色を探しています。ありのままの姿で輝けるように子どもにも大人にも読んでもらいたい1冊です。

「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」(光村教育図書)

キース・ネグレー/作 石井睦美/訳

「今日はしつとりとスカート」「明日は動くからパンツ」日々のそんなワードローブ計画は当たり前。装いに関して‘シーズン’や‘ノンルール’なんていう言葉も、もはや説明不要なくらい当たり前に使われます。好きなものを着て何が悪い？誰にも迷惑かけてないよね？と思って当然の時代です。「自分が着たいものを着る」という当たり前がまったく通用しなかった時代のお話。それが、「せかいでさいしょにズボンをはいた女の子」です。



ここに掲載している絵本は相生市立図書館で借りることができます。